

## 鎌ヶ谷市における内部仕分けについて

鎌ヶ谷市においても事務事業評価・行政評価が行われていますが、これらと、事業仕分けの決定的な違いは、公開の場で行うことと、第三者が評価するということです。事業仕分けは数年前からいくつかの自治体で取り組まれるようになりました。千葉県内の基礎自治体では習志野市と館山市。都道府県レベルでは千葉県が仕分けを行いました。

鎌ヶ谷市の施策評価は19年度から実施しており、この中では同一施策内の事務事業を優先度が高いほうからA,B,Cとして相対評価をし、Cとなった事務事業に対する内部仕分けを行いました。

### 平成21年度「同一施策内事務事業の優先度Cの事務事業の内部仕分け」結果

区分	事務事業数
不要(廃止)	2
民営化(NPO,地域団体含む)	0
国・県実施	0
市(要改善)	15
市(現行通り実施)	98
合計	115

平成21年12月議会 一般質問より

## 平成21年12月議会 松沢たけひと一般質問より

Q 事業仕分けの課題については仕分け人の選定が挙げられる。本市が行った内部仕分けを行った構成メンバーについて何う。

A 各部の次長職を部会長とし、それぞれの部の課長職が部会員となっている。

Q 本市が行った内部仕分けの課題について何う。

A 1点目は仕分けの対象とする事務事業について。優先度Cの事務事業すべてを対象に実施したため、法律の規定により実質的な見直しが難しい事務事業やすでに数年後の見直しが決定している事務事業などが対象として含まれていたことや、優先度Cの事務事業以外にも対象とすべきとの意見もあった。こうした点も含め対象事務事業の選定をどうするのが課題である。

2点目は仕分け作業担当者について。今年度は市職員が仕分け人を行ったが、学識経験者や市民など第三者の視点を入れる必要があるといった点、また第三者に仕分け作業を行う場合、なぜその方に仕分け作業をお願いするのかといった仕分け人選定の正当性をどう考えるのか課題である。

3点目は仕分け結果の取り扱いである。今年度は仕分け結果を踏まえて各部局で方針を決定した上で予算要求を行うとしているが、仕分け結果を100%予算に反映させる形ではない。一方で多くの時間をかけて仕分けを行うからには結果を予算にさせる必要があるとの意見もあり、仕分け結果の取り扱いも重要な課題である。

Q 本市が行った内部仕分けは、第三者の視点を加えた公開事業仕分けへのデモンストレーションか何う。

A 本市が実施した内部仕分けは事業仕分けの実施を前提としたものではないが、今後の事業見直しの一つの方向性を示すものと考えている。